



町政座談会を開催

8月下旬から、町内5つの会場で町政座談会を開催しました。町民の皆さんからの質問・意見と、町の回答の一部を紹介します。

(Q:質問、A:回答) ※各会場での質問・意見、回答は、町ホームページでご確認ください。

冒頭で町から情報提供(7つ)

- ①こども広場の整備
- ②飯南米のPR状況
- ③公共宿泊施設の今後のあり方
- ④ブランドメッセージプロジェクト
- ⑤住宅支援制度
- ⑥高齢者福祉の現状・課題
- ⑦飯南病院の医師・医療体制



で案。今年度のところの方針を探っていく。

Q…志津見ダム水没樹移植記念公園(神戸の森の整備が行き届かず、利用者もいない。環境整備を含め対策をとってほしい。
A…地域全体の活性化を目的に志々を元気にする会がアクションプランを作成している。「志々を元気にする会」を含めて、誰がどのように活用していくかを検討したい。

新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)対策

Q…コロナが収束する心配がない。個人としては、ワクチンを打つのが精いっぱい。一人一人の対策には限界がある。地域も疲弊している。町独自の対策を考えてほしい。
A…感染対策は、国の方針に従っている。ワクチン接種も推奨し、町独自の行動制限もお願いした。基本的な感染対策も「換気」を中心に注意を促している。地域行事は、感染対策を徹底しながらの開催を検討してほしい。町の行事は開催して

教育

Q…小学校・中学校を統合する予定はあるか。
A…今年度立ち上げた教育環境基本方針検討委員会で、検討を重ねていきたい。
Q…飯南高校の魅力化に欠かせないのが、部活動の活躍だが、部活動の経費は多額を要すると思う。部活動への支援として、ふるさと納税を活用してはどうか。
A…すでに部活動助成や寄宿舎助成の財源として、ふるさと納税(寄付者が希望する使い道・飯南高校の特色ある教育の支援)を活用してもらっている。今後も有効に活用していきたい。

Q…GIGAスクールで一人一台端末の利用が開始されたが、インターネットが繋がりにくく、支障が出ている。解消できないか。
A…町全体で光ケーブルの増設を実施し、以前より通信環境はよくなっている。雲南夢ネットもプランを増やしているので、プラン変更を検討してみてもどうか。変化がなければ、ルーターのチェックも行えるので、相談していただきたい。

子育て

Q…こども広場の整備は、住民のニーズを把握してからだと思うが、屋外に遊具を設置するのであれば、老朽化も考慮しているのか。
A…一般的に、ワクチンによっては効果が長続きするものもあれば、しないものもある。コロナワクチンは5カ月程度。現在、治療薬もない中で、重症化を防ぐために、接種を推奨している。

いく方針。

Q…4回目のワクチンを接種したが後遺症も出ていない。打てば打つほど免疫力がつかぬのか。
A…一般的な、ワクチンについては効果が長続きするものもあれば、しないものもある。コロナワクチンは5カ月程度。現在、治療薬もない中で、重症化を防ぐために、接種を推奨している。

福祉・医療

Q…飯南町には高齢者福祉施設が多いから安心してはいるが、高齢者が増え、介護職員になる若者が減る中で、今後施設に入れるのか心配になってきた。具体的な方向性を出してほしい。
A…福祉現場はコロナに対する危機感を持ちながら、利用者にも充実したケアが提供できるように日々取り組んでいるが、介護職員の不足により一部サービスを縮小しなくてはならない状況も起こっている。現在、社会福祉法人と一緒に、今後の福祉サービスもあり方を話し合っている。若い人にも夢や希望が持てるようなまちになるよう取り組んでいきたい。

Q…赤名地区にも診療所を設置してほしい。赤名地区から飯南病院への移動は、高齢者にとっては相当な負担。
A…飯南病院の維持が最重要。医師の確保も大変な状況のため、今の体制を維持することに対応したい。路線バスやタクシー

A…老朽化も考慮している。来島交流センターのこども広場は、屋外に遊具(1〜3歳向け)を整備するが、専門業者による定期点検も行いながら管理していく。

Q…子ども向けの公園整備が進んでいるが、大人も楽しめるような公園づくりもお願いしたい。
A…来島交流センターのこども広場は小さなお子さん向けに整備。令和5年度以降、整備予定の3地区(赤名・頓原・志々)は、大人も含めて楽しめるような、夢のある広場にしていきたい。

防災

Q…町の災害公営住宅の確保だが、被災者用の災害公営住宅があればいいのではないか。「空き家バンク」の何件かを災害公営住宅として確保するのはいかがでしょうか。
A…町として災害公営住宅は確保していない。昨年の災害時には、長期避難が必要な人向けに、町営住宅の空き部屋を確保。空き家の災害公営住宅化は、所有者の了解や管理料の問題も含めて、今後検討していきたい。

災害復旧

Q…昨年の豪雨災害の復旧率はどの程度か。令和4年度内に復旧が完了するのか。
A…農地・農業用施設災害の復旧率は、62パーセント(全74件、工事発注済)。農地の

農業

Q…飯南米PRを、もう少し大々的にやってみては。県内の店舗の販売を見たが、ブレンド米ではなく、単独で消費してもらおうのが一番だと思う。
A…県内店舗では町長のトップセールスもあり、「飯南町産コシヒカリ」と明記されるようになった例がある。広島方面の店舗でも、飯南町産米が多く使用されているが、一部産地の異なるブレンド米で「飯南米」の表記になっていない。今後、単独米で扱ってもらえるよう働きかけていきたい。

Q…肥料・農薬の高騰が起きている。赤字になる農家が増えると思うが、町としての対策は。
A…先般、国から肥料高騰に対する支援策(高騰部分の7割を支援)が示された。県も支援金を交付する可能性がある。町として、町として、まず国の支援策が受けられるように、J Aと一緒に農家の皆さんを支援していきたい。町の独自策は、国県の動向や農家の皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。

Q…町として有機農業に取り組みたい。どうするか。
A…昨年、農林水産省が「みどりの食料システム戦略(2050年までに有機農業の

災害を優先して復旧に取り組んでいる(今年度と来年度で復旧を目指す)。公共災害(河川・道路)は、33パーセント(99件中84件、工事発注済。残り15件は、9月中旬に発注予定)。林地崩壊防止事業は、50パーセント(全6件、工事発注済)。林道災害は、12.5パーセント(16件中、5件発注済)。発注済も含めて3カ年で復旧を行う。

公共施設(道路・宿泊施設)

Q…近年は、不在私有地も増え、草も木も切る人がいない。今後、道路沿いの木の伐採には、大変な管理費がいるのでは。飯石広域農道も法面の木が茂っている。
A…民地の伐採は、「木が小さいうちの伐採」を所有者にお願いしてきたが、最近ではできていない。再度、周知を図ってきたい。近年は不在地主も多くなってきた。近隣市町の状況も参考に検討したい。広域農道の伐採は、県と協議しながら対処していきたい。

Q…町内の公共宿泊施設は、個人的に多いと思っていた。施設の集約化や廃止、有効活用を進めてほしい。
A…町民の皆さんや観光客のニーズに沿った施設になるよう進めていく。

Q…公共宿泊施設の有効活用例として、レンタルオフィスが気になった。進捗状況はどうか。今後の計画とスケジューリング感を教えてほしい。
A…レンタルオフィスとしての活用はあくま

取組面積を25%(100万ヘクタールへ拡大などを実現)を示した。近年、環境問題、食の安全安心への関心も高まってきており、町としても、有機農業の取組は避けて通れない。しかし、有機農業は、手間や収量減などまだまだ課題もある。国は今後、新たな技術開発に取り組むとされており、町としては、新たな技術が示され、農家の皆さんが安心して有機農業に取り組める状況になれば助めていきたい。

定住

Q…定住施策のうち、うまくいった施策、うまくいかなかった施策を教えてください。
A…「セミオーダー式の定住住宅」は非常に人気があり、町の定住施策の目玉になっている。さらに、今年度は住宅支援制度を設け、「飯南町に住みたい」と思っている人に対し、多様な選択肢を用意している。結果として「田舎くらしの本」では、「子育てしやすい町」として評価されている。問題は、移住してきた人が飯南町を離れてしまうこと。町内では職種が限られているため、「働く場所がない」という理由で転出されることもある。働く場所の確保に力を入れていきたい。

Q…「空き家バンク」に登録された住宅に入居が決まった際、入居者のことを地域住民に知らせたい。地区住民も入居者も戸惑わないようにフォローしたい。
A…地域の皆さんの思いやニーズに臨機応変に対応し、入居者ともコミュニケーションを取りながら進めていきたい。